

# ダイバーシティトーク with UDA 参加者アンケート報告

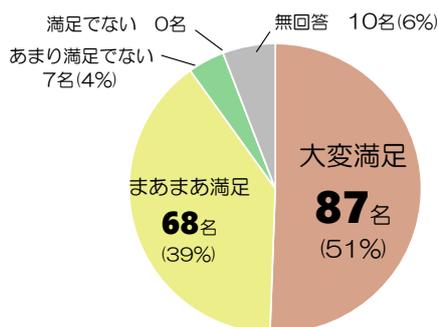
(2019年11月1日)

本報告では、2019年9月12日に開催されました「ダイバーシティトーク with UDA」に対するアンケートの結果についてまとめました。

## 1. ロバート キャンベルさんの基調講演

ダイバーシティトーク with UDA の第1部として行われたロバート キャンベルさんの基調講演では、アンケート回答者の約90%が「満足した」と回答をしていました。また講演に対する感想や意見からは、いまだに多くの当事者がカミングアウトしにくいと感じている国内の状況や、セクシュアル・マイノリティが感じる社会的な圧力について、様々な思いが語られました。

ロバート・キャンベルさんの基調講演に対する満足度



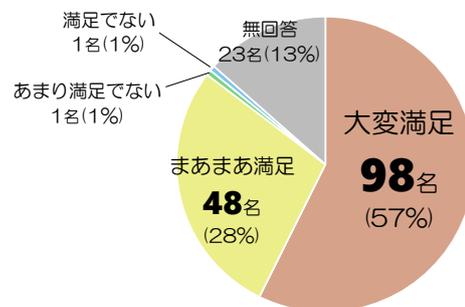
### 講演の感想や意見

- キャンベルさんの「見えるところで当たり前活躍する姿」を見せることが安心感を与えるために必要だったという意見に納得した。
- 意識をせず、「日本ってLGBTの人、そんなにいるのかな？」と聞いてしまうことがありますが、それはオープンにできない、言えない社会に原因があるのだというメッセージは心にしみました。
- マイノリティに対する見えない圧力だったり、当事者が身近にいることへの配慮だったり、メッセージの中に色々考えさせられるテーマがあった。

## 2. 大学と企業関係者によるパネルディスカッション

第2部として行われた大学・企業関係者によるパネルディスカッションでも、「満足した」と回答をした方の割合は80%を超えていました。感想や意見からは、LGBT当事者を特別扱いしないという姿勢への共感や、それぞれの実際の取り組みについて参考になったという意見などが複数寄せられていました。

パネルディスカッションに対する満足度



### パネルディスカッションの感想や意見

- freeeの方の「人それぞれ配慮してほしい事が違う」というコメントが良く納得しました。無関心だった自分に気づききっかけになりました。
- 企業のDiversity推進者として今後どのように取り組んでいくべきかヒントを頂くことができました。
- 安心感のある居場所＝特別に配慮が行き届いた場所では必ずしも無いという言葉が印象的でした。誰も特別視しない事が重要である事、実践は難しいが、意識して行きたいです。

## 3. 今後の取り組みで期待すること

最後に、今後の取り組みとして大学や企業、UDAに期待することとして、それぞれ以下のような意見・要望が挙がりました。

### 大学に対して

- ダイバーシティについての授業、それも科目名として開設するのではなく、文化人文学、経済、情報、工学、理学など、既存の学問にダイバーシティの視点をもっと加わってほしいと思う。
- ネットワークのニーズと重要性を企業に積極的に働きかけていただきたい。
- 先駆的な大学のみでなく、協会（全私共など）などを通じ全国の大学で取組みが進んでほしい。

### UDAに対して

- LGBTQを取り巻くプラットフォームとして、情報発信力を高めること。様々な場所の共有会、勉強会の開催、支援など。
- 大学と企業のパイプになって様々なイベントを企画して欲しい。
- 全国の大学の格差をなくすように、連携し、情報共有やイベント開催をして欲しい。

### 企業に対して

- Diversity/Gender/Women推進課という意識高い部署だけでなく、社員レベルまでその考えが広がっている環境が理想です。
- LGBTに対する正しい知識の習得、啓発活動が必要。加えてトイレ等の施設の充実も必要と考えます。
- 多様性が尊重される人事制度の導入。多様な人材が多様なままで活動できる環境、風土の醸成。その風土が活かされた事による、成功事例の発信。